

ゲノム医療と倫理・社会的問題 ～遺伝カウンセリングを通じた関わりを中心に～

「がんゲノム」としてがん細胞のパネル検査やクリニカル・シーケンスが脚光を浴び、遺伝カウンセリングの整備が進められている中で、どのようにしたら当事者にとってもっともベストな医療が提供できるかについて、倫理・社会的な側面に焦点をあてて考える機会を企画しました。

ゲノム医療対応型がん看護専門看護師リカレントコースインテンシブセミナーの第三回として、日米の遺伝カウンセリングの現状から日本の「がんゲノム医療」における看護の役割開発に向けた知見を得るべく、認定遺伝カウンセラーのパイオニアである先生に、ご講演いただく予定にしております。

がん看護に携わられている皆様のご参加をお待ちしております。

日時: 2018 年 9 月 2 日(日) 13:00～16:00

場所: 神戸国際会館(セミナーハウス) 9F 大会場

(兵庫県神戸市中央区御幸通 8 丁目 1 番 6 号 <http://www.kih.co.jp/access>)

*各線三宮駅の地下街・地下通路から【A8 出口】【神戸国際会館】への矢印の方向へ

対象: 専門看護師、修了生、CNS コース、大学院生、
教員(先着 80 名)

講師: 田村 智英子先生(FMC 東京クリニック/認定遺伝カウンセラー(米国/日本))

*事前申し込みとなります。

以下へアクセスの上、必要事項(氏名、ご所属、連絡先、領域等)を、**2018 年 8 月 22 日(水)**までにご登録下さい。

<http://apnhyogo.net/seminar2/>

—主 催—

兵庫県立大学大学院看護学研究科多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材(がんプロフェSSIONAL)」養成プラン(責任者: 内布 敦子)

■講師紹介

田村智英子(たむら ちえこ)先生

東京理科大学薬学部卒業。帝人株式会社にて医薬品の研究・学術活動の後、2000年にフルブライト奨学金を得て米国留学。NIHにある米国国立ヒトゲノム研究所とジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生大学院の修士課程卒業。国立成育医療センター(当時)などで遺伝カウンセラーとして勤務され、2004～2009年には、お茶の水女子大学大学院遺伝カウンセリングコースの准教授として教育に従事。現在は、FMC 東京クリニック医療情報・遺伝カウンセリング部部長のほか、順天堂大学遺伝相談外来、岩国医療センター家族性腫瘍外来などの臨床にも携わっています。

認定遺伝カウンセラー(米国認定遺伝カウンセラー協会)

認定遺伝カウンセラー(日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会)

家族性腫瘍カウンセラー(日本家族性腫瘍学会)、薬剤師

日本家族性腫瘍学会理事、日本認定遺伝カウンセラー協会理事

日本人類遺伝学会評議員、日本遺伝カウンセリング学会評議員

■講演内容

近年、がん診療において遺伝子やゲノムの解析が用いられる場面が急速に増加しています。たとえば、遺伝子の解析は、遺伝性腫瘍が疑われるケースだけではなく広く一般のがん患者さんを対象として行われるようになりつつあり、その情報をもとにより適切な治療方針が決められるようになってきましたが、そうした解析により予期せぬ形で遺伝性腫瘍が見つかる場合もあります。遺伝子やゲノムの解析の情報を十分に活かした形で患者さんや血縁者の方々の治療や予防が行われることを目指すためには、様々な職種のかかわる場面や連携の仕方について、新たな方向性を検討することも必要です。変わりつつあるがん診療の中で、私たちに何ができるか、皆で考えてみたいと思います。

連絡先:兵庫県立大学看護学部内 がんプロ事務局

兵庫県明石市北王子町 13 番 71 号

TEL : 078-925-0860 FAX : 078-925-0858

E-mail : gan-support@cnas.u-hyogo.ac.jp



兵庫県立大学 大学院 看護学研究科

College of Nursing Art and Science, University of Hyogo